

被災地への医薬品等の供給・対応の状況

医療機関等への供給・対応

医療用医薬品

1. 一般的な医薬品

→ 医療機関・薬局から現地の卸業者に発注し、卸業者の全国ネットワークを通じて、医療機関等に供給される

[現地ルート]

※一般的な医薬品とは、下記2.以外の医薬品であり、例えば、血圧降下剤、抗生物質など

2. 現地の卸業者では調達できない医薬品等

→ 医療機関等から県庁に発注し、県庁から国に依頼がなされ、全国業界団体のネットワークを通じて、医療機関等に供給される[中央ルート]

※中央ルートにより調達された品目は、医療用酸素ボンベ約600本、透析輸液270本、ダイアライザー2000本、紙おむつ214万枚など

・医薬品搬送車両は、ガソリン・軽油を最優先で給油

・自衛隊ヘリの活用

このようなルートの確立により、現時点では、改善がなされ、医療機関等に対して必要な医薬品等を搬入することができている。

避難所等への供給・対応

医療用医薬品

1. 国・業界団体から現地への補給

・日本医師会

→3月19日、岩手県・宮城県
の医師会に対して搬送(10t)

・日本製薬工業協会

→3月24日、岩手県・宮城県・福島県
に対して各10t、3月30日、福島県に4t、計34t搬送



2. 現地集積所で、薬剤師等によって仕分けし、保健所等へ搬送



3. 医師や薬剤師などが携行し、避難所で必要な被災者に提供

一般用医薬品(OTC)

【海路分】

1. 国・業界団体から現地への補給
・日本薬剤師会、日本フェントラッグストア協会、日本OTC協会など

→3月21日～29日、岩手県・宮城県
に対して一般用医薬品や緊急医療セットなど計4680箱などを搬送



2. 現地集積所で、薬剤師等によって仕分け



3. 生活物資と併せて避難所に搬送したり、薬剤師などが携行し、避難所で配布

【陸路分】

1. 国・業界団体から現地への補給
・日本OTC協会

→3月23日～29日、岩手県・宮城県・福島県
に対して一般用医薬品など計15万個・瓶、18万枚などを搬送



2. 現地集積所で、薬剤師等によって仕分け



3. 薬剤師などが携行し、避難所で配布

必要な量の医薬品は確保できており、避難所へも順次搬送している。

人工呼吸器を利用する在宅医療患者の緊急相談窓口について

目的

東京電力及び東北電力の計画停電により影響を受ける1都11県の44病院（国立病院等）に緊急相談窓口を設置し、在宅で人工呼吸器を使用されている患者の主治医や訪問看護ステーション等の支援や、緊急一時入院の受け入れすることを目的とする。

対象施設（45病院）

- 国立病院機構病院（東京電力管内：14病院、東北電力管内：5病院）
- 労災病院（東京電力管内：5病院、東北電力管内：3病院）
- 社会保険病院等（東京電力管内：17病院、東北電力管内：1病院）

相談件数等（5月30日現在）

- 相談件数（東京電力管内：153件、東北電力管内：5件）
- 一時入院患者数（東京電力管内：5名、東北電力管内：2名）

原発事故への対応

病院の状況

(平成23年5月16日現在)

	病院数	診療機能
避難区域	7病院	全入院患者を搬送済
計画的避難区域	0病院	—
緊急時避難準備区域	6病院	外来:5病院 入院:3病院(緊急入院などに限定)

(福島県：計画的避難区域と緊急時避難準備区域)



計画的避難区域

緊急時避難準備区域

患者・利用者の搬送

- 東京電力福島第一原子力発電所から20～30km圏内の病院・老健施設等の患者・入居者(約1,700人(6病院約700人、福祉施設約1000人))を福島県内外へ搬送。(同圏域は3月15日に屋内待避指示、4月22日に解除)

被ばく不安解消のためのスクリーニング対応医師等の派遣

- 放射線の測定や健康管理のため、医師など累計300人が活動。(6月3日現在)

健康の確保

- 放射線に関する健康相談について、都道府県等の保健所に対し、相談窓口を設置するよう依頼(全国に481箇所設置済み)。
- 一般の方向けQ&Aをホームページで周知(雨に濡れても大丈夫か、など)。